

エシカル消費の普及啓発

令和4年3月24日

消費者庁新未来創造戦略本部



本日の内容

- 1. エシカル消費教材の
活用事例の収集**
2. サステナブルファッションの
普及啓発

エシカル消費とは

エシカル消費とは、地域の活性化や雇用なども含む、人や社会・環境に配慮した消費行動のこと。

主な具体例

今だけ



未来・長期

みんなの未来を
考えること

- ・エコ商品
- ・リサイクル商品
- ・食品ロス削減さくげん
- ・ESG 投資
- ・サステナブルファッション

ここだけ



地域・世界

自分の周りの
地域や世界を
考えること

- ・フェアトレード商品
- ・寄付付きの商品
- ・地産地消・伝統品
- ・被災地産品ひさいちさんびん
- ・オーガニック商品

自分だけ



みんなに
優しい社会

様々な立場の
人々が社会の
一員として参加・
活躍かつやくできる社会

- ・ユニバーサルデザイン
- ・ダイバーシティ
(しょう障がい者支援等)
- ・生物多様性

【モデルプロジェクト等の概要】

徳島県内の小中学校等において、エシカル消費に関する教材を活用した授業を試験的に実施するとともに、活用事例の収集等を行い、エシカル消費の普及啓発を行う。

【これまでの主な取組・成果】

消費者庁ウェブサイトで取組事例を公表（39事例）

徳島県内で実施されたエシカル消費に関する取組事例集（令和2年度）

問題意識・課題

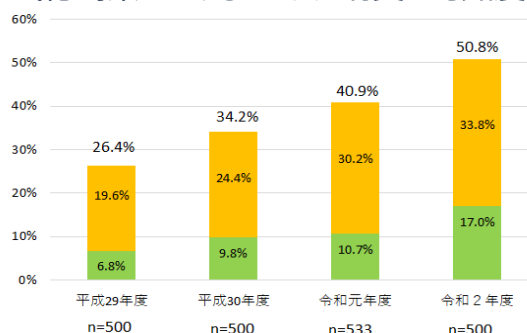
- 全国を対象とした「倫理的消費（エシカル消費）」に関する意識調査によると、エシカル消費の認知度は6.0%(H28年度)→12.2%(R1年度)と、上昇するも数値自体依然として低い水準
- 一方で徳島県のみを対象とした調査では、エシカル消費の認知度が26.4%(H29年度)→50.8%(R2年度)と、全国と比べ高水準(注)

⇒ より一層のエシカル消費の普及啓発のため、全国の小中学校等の学校現場における本教材の活用が重要。

実施する取組

- 教材を活用した授業の現地調査・教員へのヒアリングと児童、生徒へのアンケート
- 小中学生を対象とした出前講座の実施
- シンポジウムの開催

（徳島県におけるエシカル消費の認知度）



■ 言葉及び意味を知っている ■ 言葉のみ知っている、聞いたことがある

成果イメージ・効果

- 教材を活用した実践事例集等を公表
- 若年層に向けたエシカル消費の普及啓発の全国展開

（エシカル消費に関する教材）



授業で使いやすい！ 消費者教育教材（小学校中学年以上対象）

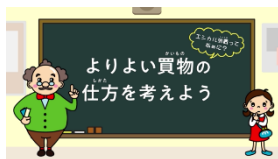
よりよい買物の仕方を考えよう～エシカル消費ってなあに？～

主に小学校中学年以上の児童・生徒を対象とした、エシカル消費について学べる消費者教育用教材です。動画とワーク、エシカル消費ゲームなどを組み合わせることにより、子どもたちが「社会を変えるお買物」を体験することができます。

特徴 1

動画で様々な社会的課題について学ぶ

エシカちゃん、ルー博士と一緒に、「エシカル消費」についてわかりやすく学習できます。



特徴 2

ゲーム教材で楽しく能動的に学べる

エシカル消費ゲームに取り組むことで、地域や環境に配慮した買物をすることが社会的課題の解決につながることを楽しく学習できます。

特徴 3

教材の組み合わせ次第で多様な活用が可能

教材の組み合わせを工夫することで、様々な教科で使えるほか、個人学習・グループ学習にも対応可能。また、学校の授業だけでなく学童保育、地域のイベントでも活用ができます。

指導解説書付き！



教材一覧

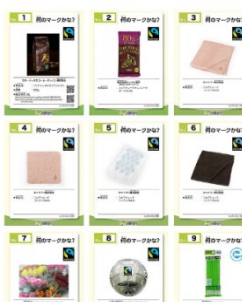


①チャレンジマップ



(イメージ)

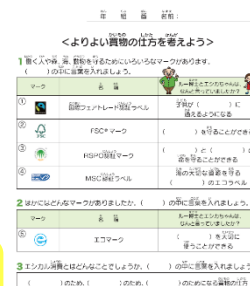
②商品POP (※)



③商品POP
シート (※)



④認証マーク
フリップ



⑤ワークシート



⑥動画

(※) 認証ラベルの付された商品の解説資料

よりよい買物の仕方を考えよう～エシカル消費ってなあに？～

＜小学校でエシカル消費を学習する際の科目・単元等の例＞

科目	対象学年	単元等
家庭科	5、6年生	消費生活、環境に配慮した生活
社会科	3年生	地域に見られる生産や販売の仕事
	4年生	ごみ問題、リサイクル、3R
	5年生	農業や水産業における食糧生産、自然環境、地産地消
	6年生	グローバル化する世界と日本の役割
道徳科	各学年	自然愛護（思いやり、共生）
総合的な学習の時間	3年生以降	SDGsに関連した学習、地域に根差した学習

＜中学校でエシカル消費を学習する際の科目・単元の例＞

科目	対象学年	単元
総合的な学習の時間	各学年	SDGsに関連した学習

※上記の科目・単元に限らず、幅広い分野でご活用いただくことが可能です。

事例紹介① 小学校4年生/社会科での活用

授業の目標：ごみ減量だけでなく、様々な観点から問題を解決するために
持続可能に取り組むことの大切さを考えるとともに視野を広げる

学習の流れ

導入

前回の授業の振り返り

家庭で実践したごみ
ゼロ作戦の振り返り、発表



展開

グループワーク・発表

班ごとに意見をまとめ、
どうすれば取組を継続で
きるかを考え発表

まとめ

動画の視聴



ポイント1

動画を視聴することで、買物の
際に「自分がいる、いない」
以外に環境に配慮するという視点
(マークを参考に)を持つ
必要性を伝えることができる。

ポイント2

チャレンジマップを見せることで、
世界にはごみや水の問題だけでなく
様々な問題があることを伝えること
ができる。

授業以外での活用



商品POPを廊下に掲示

廊下に商品POPシートを掲示
することで、児童がいつでも
気軽に認証マークの意味や
マークが付いている商品を知
ることができる。

担当教員の声

動画は児童にとって印象深かったようで、
授業で使った「エコマーク」以外の
マークの動画も見たいと言っていた。
また、商品POPは児童の身近な商品が
多数あったのがよかった。



児童の声

自分にあったことをすること、簡単なもの
から始めること、無理しないですること、
目標を決めてするというようなことを工夫
できると分かったのでやってみようと思っ
た。



事例紹介②

小学校6年生/総合的な学習の時間での活用

授業の目標：これまでの買い物を見直し、エシカル消費の買物から「平和とは何か」「自分にできることは何か」を考えよう

学習の流れ

導入

前回の授業の振り返り

- ・これまで自分が買物でどんなことに気を付けていたか発表
- ・フェアトレードに購入者として関わっていたことを復習



展開

動画の視聴



グループワーク・発表



ポイント1

動画を視聴することで、フェアトレード商品の購入により、発展途国の子どもが助かるかもしれないことに気付かせ、そのように“つながり”があるのがエシカル消費ということを認識させることができる。

ポイント2

値段付の商品を比べることで、フェアトレード商品の価格の理由を知り、購入することで何につながるのか気付くことができる。



まとめ

考えの整理

- ・エシカル消費で自分にできることを考える
- ・消費だけでなく、一人一人の考えや行動が世界を変えていくこと、平和を結び付けてフェアトレード商品を買うことの大切さを伝える

担当教員の声

商品POPに「価格」も情報として必要だと思う。「エシカル消費がよい」「フェアトレードがよい」ということだけではなく、**比較し、考えを深めることを通して行動に繋がると考えられる。**



児童の声

- ・自分たちでも生活の中でエシカル消費ができることが印象に残った。
- ・エシカル消費を初めて知って、これから自分の日々の考え方や行動を変えたり、このことを家族に伝えたりしたいと思った。



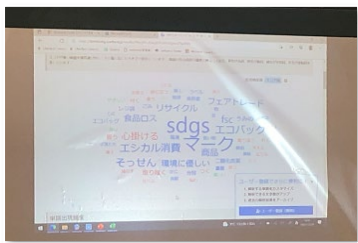
事例紹介③ 中学校2年生/家庭科での活用

授業の目標：SDGsの新しい視点を知る
これまで学んだSDGsの課題を解決するため、自分の生活の中で取り組めることを考えよう

学習の流れ

導入

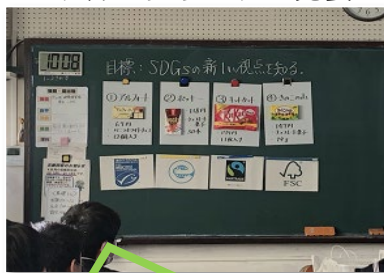
SDGsに関する認識の共有



・テキストマイニングを行い、授業の前後でのSDGsに対する認識の変化を視覚的に理解する

展開

グループワーク・発表



ポイント

身近な商品の値段と内容量、マークの有無を提示し、**商品選択の仕方を問うことで、エシカル消費や「買物が投票である」ことを伝える。**



・商品に何のマークがついているか班で考える
・チャレンジマップを活用し、SDGsに関する課題とのつながりを考える

まとめ

動画の視聴

・動画を視聴後、学んだことを振り返り、「エシカル消費の観点」からSDGsに対応した新しい生活の仕方を考える機会とする



担当教員の声

教材で紹介される商品に、携帯電話や自転車など生徒が実際に欲しいと思っている商品が追加されると、生徒の興味・関心がもっと広がると思った。

教科書で学ぶ授業とは違った感覚で生き生きとした態度で学べた。



生徒の声

・多くの認証マークがある事を知り、**SDGsへの知識をより一層高められた。**
・エシカル消費をすることによって、環境や貧しい国の方たちの支援ができるのはとてもいいことだと思う。



本日の内容

1. エシカル消費教材の活用事例の収集
- 2. サステナブルファッションの普及啓発**

サステナブルファッションとは

衣服の生産から着用、廃棄に至るプロセスにおいて将来にわたり持続可能であることを目指し、生態系を含む地球環境や関わる人・社会に配慮した取組のこと

#SUSTAINABLEFASHION

1年間1回も着られていない服が
一人あたり25枚もあります。



循環型ファッションの推進には
家庭にしまい込まれている
服の活用が課題です。



#SUSTAINABLEFASHION

家庭から手放される衣服の量は年間約75万トン、
うち約50万トンがごみとして廃棄されています。



ごみに出された衣服が
再資源化される割合はたった5%ほど。
服を資源として再活用することが求められています。



#SUSTAINABLEFASHION

家庭から手放される衣服のうち、
リユース・リサイクルされる割合は約34%
残りはごみとして処分されます。



もし残りの全ての衣服が回収され、
リサイクルを経て原材料に再供給された場合、
最大で年間約2,500万トンのCO₂排出量が削減できます。
これは東京都における年間のCO₂排出量の
約4割に相当します。



#SUSTAINABLEFASHION

国内に供給される衣服の製造で
必要な水の量は年間で約83億m³、
うち約9割は綿の栽培によるものです。



もし全ての綿をオーガニックコットンにできれば
年間約67億m³の水消費が削減されます。
これは東京都で年間利用される水の
4倍以上の量です。

① 2017年度繊維産業の環境負荷削減目標達成率(%)を公表しています。
② ①と②の差は、繊維産業の環境負荷削減目標達成率(%)を公表しています。



#SUSTAINABLEFASHION

私たちの4人に1人は
「安く買い、流行のシーズンが終わったら処分する
サイクルを見直したい」と感じています。



もし衣服の供給量を25%減らすことができれば
約20万トン分の服を作らずに済みます。
これは東京タワー約50棟分の重さに相当します。



出典：環境省HPから抜粋

なぜ今サステナブルファッションか？

アパレル・ファッション業界の環境負荷面等への注目高
～世界レベルで取組が加速～

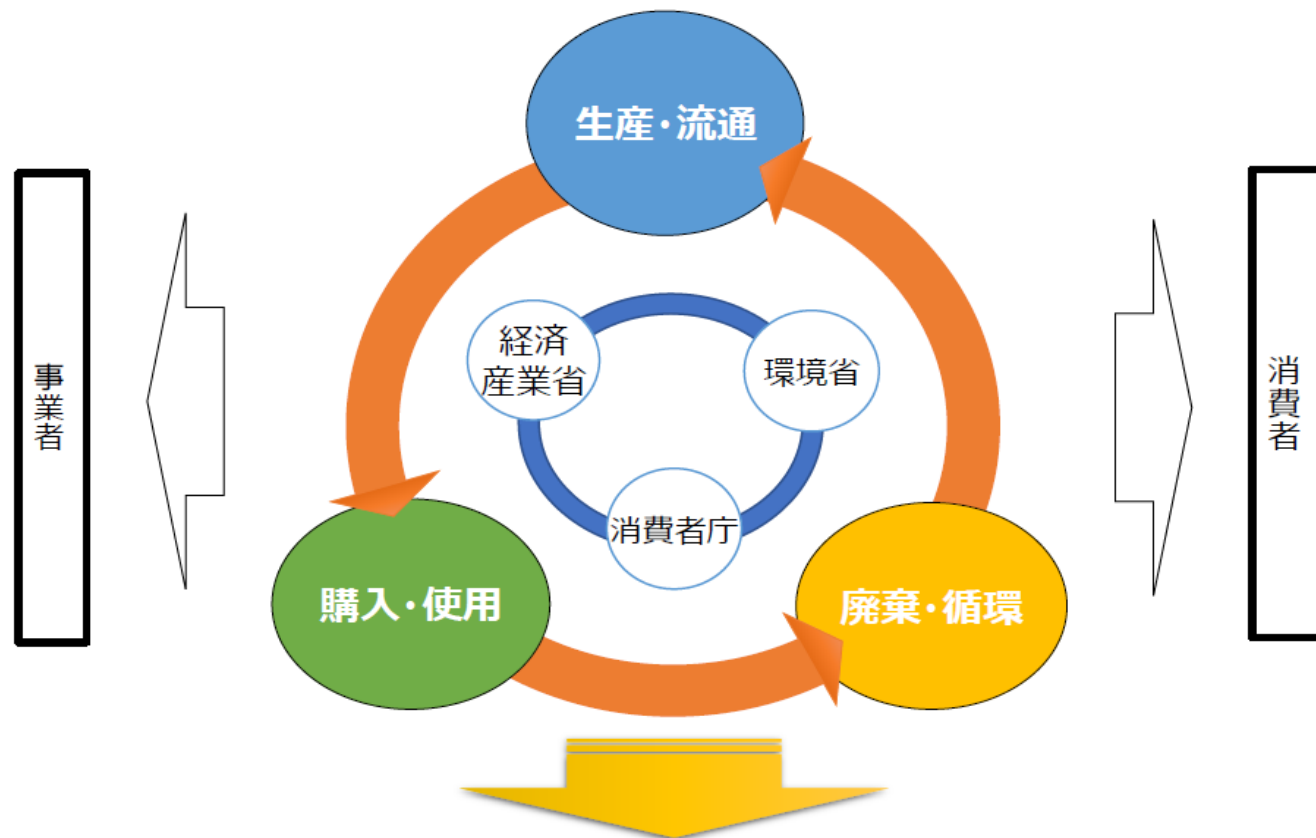
消費者の間での関心の芽
～特に若年世代、コロナ禍を契機に関心の高まり～

「エシカル消費」の持ちうる意味の再認識
～少子高齢化、GDP伸び悩みの中での「安さ」や「便利さ」
に留まらない、消費生活の選択肢の提示～

日本の強みの再認識、世界に向けたメッセージの可能性
～「三方よし」「もったいない」「優れた技術」等～

サステナブルファッション元年？ 3省庁連携の下での推進

消費者庁、経済産業省、環境省の3省庁が連携し、生産・流通から廃棄・循環までの各段階に応じて、事業者及び消費者の双方に向けた取組を計画的に進めるとともに、制度面を含めた課題の整理・検討を行っていく。



事業者の取組の推進（環境配慮設計の推進・透明性の向上等）、消費者の行動変容等の実現
ファッションロスの削減

サステナブルファッション推進の取組

消費者庁の取組

① 「サステナブルファッション」に向けた消費者行動18のヒントの公表



「サステナブルファッション」に向けた消費者行動18のヒント～服を買うときから始まるサステナブルファッション習慣のすすめ～

<https://www.ethical.caa.go.jp/sustainable/index.html>

② 「サステナブルファッション・サポーター」制度の創設

③ アパレルファッション業界における消費者志向自主宣言の促進

④ サステナブルファッション地域実証事業の実施

⑤ 「わたしのサステナブルファッション宣言」リレー

●ハッシュタグ「#サステナブルファッション宣言」

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/public_awareness/ethical/efforts/#relay

新未来創造戦略本部での取組

2021年

7/12

サステナブルファッションシンポジウム

ファッションから考えるサステナブルな未来 を開催

プログラム

- 開会挨拶
- 鎌田安里紗氏 基調講演 「サステナブルファッションとは？-服と自然と社会のつながり-」
- パネルディスカッション 「サステナブルファッションと消費者の選択」
- 学生を交えたディスカッション 「ロスから考えるサステナブルファッション」
- 閉会挨拶

基調講演 講師
エシカルファッションプランナー
鎌田 安里紗 氏



＜基調講演＞ エシカルファッション、サステナブルファッションについての事業や行政、関係機関への働きかけ等に積極的に取り組まれている鎌田安里紗氏から、ファッションを取り巻く現状や、ご自身の取組についてご説明いただいた。

＜パネルディスカッション＞ タオル生産会社のIKEUCHI ORGANIC（株）の池内氏に生産の立場から、上勝町ゼロ・ウェイストセンターの大塚氏に廃棄の立場から、環境省及び消費者庁から行政の取組を紹介するとともに、消費者の役割について、議論を行った。



＜学生を交えたディスカッション＞ 四国大学の学生を対象にした衣服の消費に関する調査の結果を交えて、四国大学生2名、鎌田氏、大塚氏、加渡教授5名がサステナブルファッションに対する消費者の意識、行動のあり方等について意見交換を行った。

- 主催：消費者庁新未来創造戦略本部・環境省中国四国地方環境事務所四国事務所
四国大学
- 後援：ローカルSDGs四国
- 協力：四国環境パートナーシップオフィス、四国地方ESD活動支援センター



基調講演「サステナブルファッションとは？-服と自然と社会のつながり-」



- ・サステナブルファッションは、洋服の生産や消費、廃棄の過程で、**自然環境や働いている人**というところに目を向け、その過程も含めてファッションを健全に健康的に楽しんでいくための考え方。
- ・近年、ファストファッションという形態で比較的低価格で、おしゃれな服を買えるようになったが、捨てる時も簡単に捨ててしまう。**手放した服は多くのものは焼却・埋め立てになる。**
- ・ファッション業界は、生産背景が複雑で長くて見えづらく、**服を作っている方の労働環境や生態系への影響、大量生産大量消費等のいろんな問題が起きている**と言われている。
- ・バングラデシュにある縫製工場の倒壊事故をきっかけに、**ファッションレボリューション**というグローバルキャンペーンが始まり、**ブランド、企業の生産背景の開示具合をランキング付けしたり、生産背景に関する情報を開示する仕組みづくり**が進んでいる。
- ・服を生み出す側がどんな考えをもって服を生み出すかということも重要であると考え、環境や社会課題に対する視点を持つファッションデザイナーの育成・支援を目的としたファッションフロンティアプログラムというプログラムを新たに企画した。
- ・消費者、企業、デザイナー、省庁が一緒になり、ファッション産業に変化を作っていけたらよい。

パネルディスカッション 「サステナブルファッションと消費者の選択」



- ・資源を循環的に使い続けるためには、**産業界の取組を進めると同時に衣食住のライフサイクルをサステナブルに変えていくことが重要。**
- ・いまだけ、ここだけ、自分だけという考え方ではなく、**中長期的な視点で環境や様々な立場の人への視点が重要。**
- ・企業はどんどん情報開示をし、消費者はそこに興味を持って、一緒に興味を持てる領域を増やしながらか、**共同作業でより良いものづくりをしていけると良いと思う。**
- ・エコ、サステナブルについて、**自分の立場で捉え、いかに関与するかが非常に大事な**ことではないか。

学生を交えたディスカッション「ロスから考えるサステナブルファッション」



- ・生産過程等の透明化を進めた企業が消費者から選ばれるということが、企業に伝わるのが、透明化が加速するために必要。
- ・商品を買うことで応援する、**買い物は「いいね」の一票である。**
- ・消費者側の役割として、知識を付けていくことが重要。**何を重視して服を手にするのか、買いすぎていないかを第1に考えることが大事。**また、**捨てるという選択肢をなくしていくことが大きな役割と責任。**
- ・コンビニや郵便局など洋服を回収できる場所がもっと増え、食品トレイやペットボトルのように**回収ボックスに捨てるのが当たり前になっていくと良い。**

新未来創造戦略本部での取組

2021年

12/9

サステナブルファッションイベント

ファッションから考えるサステナブルな未来
～わたしたちができること～

を開催

プログラム

- 開会挨拶
- 各省庁の取組紹介
- トークショー 「わたしたちができるサステナブルファッション」
- 上勝町ゼロ・ウェイストセンターの取組紹介
- サステナブルファッションショー



第1部<3省庁の取組紹介>

消費者庁、環境省、経済産業省から、それぞれの省庁におけるサステナブルファッションの推進における役割や取り組み状況等を紹介した。



第2部<トークショー>

サステナブルファッションに関する取組に御尽力されている一般社団法人unisteps共同代表の鎌田安里紗氏をコーディネーターとし、先進的な取組を行っている株式会社メルカリの上村氏、デプトカンパニー代表のeri氏、上勝町ゼロ・ウェイストセンターCEOの大塚氏、株式会社Shoichi代表取締役CEOの山本氏をゲストに迎え、「わたしたちができるサステナブルファッション」をテーマにお話いただいた。



第3部<サステナブルファッションショー>

出演・演出/大阪モード学園

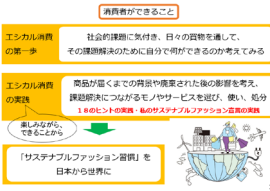
- ・ファッションデザイン学科
- ・ファッション技術学科
- ・スタイリスト学科
- ・メイク・ネイル学科

エシカル消費特設サイト「サステナブルファッション習慣のすすめ」の“18のヒント”を参考に、サステナブルファッションの具体的なコーディネートを紹介。学生へのインタビューではコーディネートの意図や背景、サステナブルな観点をお聞きした。

- 主催：消費者庁
- 後援：経済産業省・環境省・徳島県

3省庁の取組紹介

サステナブルファッション推進に向けて



<消費者庁>

・「三方よし」「もったいない」という文化、優れた技術を持った日本だからこそ、サステナブルファッションにおいても世界をリードし、この運動を進めていかなければならない。**エシカル消費先進地である徳島から、サステナブルファッション習慣を日本に、そして世界に広げていきたい。**

<環境省>

・「適量生産・適量購入・循環利用」、そして「適正価格」を実現するには**生活者と企業のコミュニケーション・協働がカギ**。環境省はそのコミュニケーションにつながるよう、環境負荷の見える化のサポートに取り組んでいる。循環利用など回収の仕組づくり等に取り組んでいきながら、ライフスタイルシフトを後押ししていききたい。

<経済産業省>

・繊維産業では**循環経済への移行**が重要。経産省の取組としては、業界と共にガイドラインを策定していく。循環システム、循環経済のビジョンの中でも重要な分野である**繊維産業でのサーキュラエコノミー**というのが大きな課題だと思っており、経済産業省としても取組を今後とも進めていきたい。

トークショー「私たちができるサステナブルファッション」



・未来のファッションのあり方として求められる変化として、一点目に**衣服を作る段階からきちんと出口が確保されていることが必要**。二点目に行政や企業は**生活者が資源回収に参加しやすい制度設計と整える**と同時に、生活者自身もそれに許容できるようになることが必要。

・服を作る段階や分解する段階に、個人が関与できるような場をつくることで、もっと循環を身近に感じられるようになるのではないかと。不要になって手放したというときに、**価値のある資源として回収されるという流れをつくらないといけない。**

・現在は手放すときの良い仕組みがない。もっと個人間の引渡が進んだり、ものが廃棄されるまでの時間を伸ばしたり、あるいは廃棄することになっても良い循環を作れたり、ということが必要では。

・洋服がなぜ安いのかとか、便利でどこでも手に入るのだろうというその**背景を可視化、透明化された上で、みんながそれを考えていける社会を目指すのが第一歩**だと思う。

サステナブルファッションショー

・大量の服が廃棄されることをそのままにするのではなく、私たちのような**未来の作り手が今回のような具体的な解決方法を発信していく必要性を感じた。**

・今回は処分するときのヒントを参考にしたが、**服を買うときや、手に取るときに、未来のことをもっとしっかり意識して、一つ一つの服を大切に扱う**ことができれば、もっといいなと思った。

・リメイクの取組を通じて、服を大事に使っていくということと一緒に学べたかなと思う。これからも継続してこの取組を意識をしてやっていっていただきたい。



新未来創造戦略本部での取組



サステナブル ファッションに関する 日仏シンポジウム ～フランスの取組から学ぶ～



2022
3/10
開催



テーマ:「サステナブルファッションの国際的潮流と今後の展開」

17:00-17:10 開会挨拶
若宮 健詞 内閣府特命担当大臣(消費者及び食品安全) ※ビデオメッセージ
フィリップ・セトン 駐日フランス大使 ※オンライン参加

17:10-18:00 第1部 基調講演

17:10-17:40 講演者: ギヨーム・ド・セイネス ファッション高品位分野戦略委員会委員長、エルメス社執行副社長
講演者: ロランス・メガール 経済・財政・振興省企業総局健康・生活用品・食品産業課長
「フランスにおけるサステナブルファッションに向けた規制とEUの潮流」
17:40-18:00 講演者: 片岡 進 消費者庁審議官
「日本におけるサステナブルファッション」

18:00-18:20 休憩

18:20-19:35 第2部 ラウンドテーブル

「サステナブルファッションに向けた事業者の取組と消費行動」

モデレーター 日下部 英紀 消費者庁新未来創造戦略本部次長

パネリスト

(日本)

生駒 芳子 日本エシカル推進協議会副会長、HIRUMEプロデューサー、
消費者庁サステナブルファッションサポーター

鎌田 安里紗 一般社団法人unisteps共同代表、消費者庁サステナブルファッションサポーター

下田 祥朗 伊藤忠商事株式会社ファッションアパレル第三部繊維原料課長

片岡 進 消費者庁審議官

(フランス)

アンドレーアンヌ・ルミュー フランスモード学院持続可能開発ケリング講座部門長

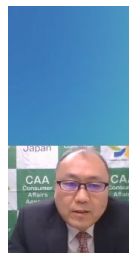
グレゴリー・マルシャン トゥルーコワン繊維ユニオン社社長、
欧州アパレル繊維産業連盟(EURATEX)副会長

ティボー・ヴォン・チャメル ドゥボー・グループ社長

19:35 閉会挨拶
サルパートル・セラパル エコロジー移行省グリーン・連帯経済部長、持続可能開発代表

【基調講演】

ファッションの国・フランスの政府関係者や世界的ラグジュアリーブランドの役員に登壇いただき、ファッション界における行政及び事業者の取組をご説明いただいた。

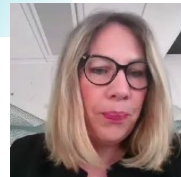


日本における衣類のマテリアルフロー

衣類のマテリアルフロー サマリー
・衣類の国内生産総量は714万トン(2020年)、56.76万トンが海外から輸入
・事業者から収集される衣類は147万トン
・総廃棄量は12万トン、リサイクル量は19万トン、リユースされる量は14万トン



出典:「国内衣類と海外ファッションとを繋ぐ持続可能な取組」(ファッション・リサイクル) 2021年12月



【ラウンドテーブル】

様々な立場でファッションに関わる日仏両国の有識者に登壇いただき、今後のサステナブルファッションの動向・展望について、多様な視点からお話いただいた。



アーカイブ動画を消費者庁YouTube公式チャンネルにて配信予定

ご清聴ありがとうございました